

「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～」第4回会議
議事録

日 時 令和4年7月14日（木）午後2時～午後4時

場 所 KOINおよびオンライン会議システム併用

出席者（敬称略、五十音順、*印はオンライン参加）

岩崎達也、木原浩貴*、中嶋直己、新川達郎、野村恭彦、横江一徳、吉野章
（オブザーバー：伊住公一朗*、谷口実、米田幸生）

欠席者 一ノ瀬メイ、一原雅子、大木和典、太田航平、近藤令子、笹岡隆甫、鈴木靖文、津田郁太、
中馬一登、寺島美羽、中村多伽、深尾昌峰、前田展広、松添みつこ、松本直人、
（オブザーバー：小坂洋平）

次 第

- 1 2050年の脱炭素ライフスタイルビジョン等の共有
- 2 普及の進め方について（キャッチコピーなど）
- 3 今後の活動の説明
- 4 メンバーより一言

意見交換での主なご意見

<キャッチコピー>

○事務局より2案説明

A案：「DO YOU KYOTO? 2050

変わろう、今。変えよう、未来。」

説明：海外に向けての発信を想定し、英語を使ったコピーを考えたとき、既に京都市で、“環境にいいことをしていますか？”という合言葉として使われている「DO YOU KYOTO?」をアップデートさせて使用する案。“2050”という期限目標を付けることで、2050年までにカーボンニュートラルを達成するという意思を表明。サブコピーでは、京都市民を話者として、“変えよう”という強い呼びかけを表現した。

B案：「今、ちょっと変える。未来、もっと変わる。

京都から、カーボンニュートラルを広げよう。」

説明：環境に関する意識はあるが行動を起こせていない人をターゲットに設定した案。“ちょっと”という小さな変化が大きな変化につながるというバタフライエフェクトを意識した。また、“ちょっと”でハードルを下げつつもポジティブなコピーにし、自分にもできそうなことをビジョンイラストから探してもらおう。サブコピーに、カーボンニュートラルを分かりやすく表現した。

○出席者のご意見

- ・ A案が良い。「DO YOU KYOTO?」が市民に認知されていることで、ゼロから広めるより効率が良い。シンプルな言葉で、街中に貼られてもポジティブなムードであり、海外の方にも認知される可能性がある。
- ・ B案は避けた方がよい表現が入っている。社会心理学や気候コミュニケーションの研究では、行政

がメッセージを発する際に大きく変化させるといふ発言を恐れて、「少し」や「身近なところから」などと表現することがリスクとして挙げられている。脱炭素社会に向けては、今ちょっと変えても間に合わないという事実がある以上、避けてほしい表現である。

- ・ A案について、キャッチコピーはこれで良いが、デザインや付記する説明の文章等で、2050年までにCO₂排出量をゼロにしなければならないことを伝え、これまでとは大きく変わる必要があることを強調した方がよいと思う。

○欠席者のご意見（事前に事務局が聞き取り）

- ・ 「DO YOU KYOTO?」はとても印象的で良いキャッチコピーだと思う。グローバルにも知られているこの合言葉を再活用しない手はないと思う。この言葉にさらに2050を付けることで未来感が感じられて良い。
- ・ 「DO YOU KYOTO?」は少なくとも他府県の方には分かりにくく、府市内に現在住んでいる他地域出身の方にも何か排他的な感覚をもたらすリスクがある。また、今の「ちょっと」が未来を「(今の努力との比較で)もっと」変わるという書き方が、今行動をとることのメリットや意義を表しているように思う。
- ・ 「DO YOU KYOTO?」を使用するのも、京都ならではであり、これまでの京都市の取組とのつながりも感じられるので、良いと思う。
- ・ 「DO YOU KYOTO?」という言葉だけでは、一般の方は、何についてのことか分からないのではないか。
- ・ A案が良い。既に認知のある活動と別軸で走らせるよりも、今ある活動も推進しながら新しく市民の認知を得つつ進めることで、より多くの人の参画が期待できると考える。
- ・ B案が良い。
- ・ 両案とも良い。分かりやすい。

<メンバーより一言>

○今後京創ミーティングに期待すること、御自身で取り組みたい活動

- ・ 環境に対する意識から行動に至るまで、それぞれの主体に多様性がある中で、いかに働きかけていくかは難しいが、その分、多様なアプローチがある。研究者の立場として、情報を集めて分析することで協力したい。
- ・ 活動を通じて、自分の会社の価値を社会に示していかなければならないと改めて思った。京都はコミュニティ形成において、年齢、性別、国籍などに多様性がある街である。10～30代の未来を担う世代とともに、目に見える成果を作っていきたい。
- ・ これからたくさんプロジェクトが立ち上がっていく中で、皆で話し合っただけを確認する情報発信のポータルがあれば良い。脱炭素をサポートするような産業を、金融機関やベンチャーキャピタルと連携し、京都の中で育てていきたい。
- ・ 一人ひとりがどう生きるかということにつながると思う。何かを変えなければいけないが、執着により現実から目を背けている現実がある。大きな流れに乗っかることも大事だが、その中で自分がどのように動いていくか、一人ひとりが物事を考えていけるようになれば良い。多くの人々がそれに気づいてもえるよう自分にできる活動を行っていきたい。
- ・ もともと、環境に良いことをしようという思いから、飲食店で出た生ごみを回収し堆肥にしていた。

ただ、京創ミーティングをきっかけに、より環境に良いことができないかという思いになるなど、気がつけば、巻き込まれていった。例えば、イベントで環境のことを話すなど、今後もさまざまな主体を巻き込んでいけば良いと思う。

- 京創ミーティングでさまざまなアクションが生まれており、本当にすごいと感動した。今後うまくプロジェクトに巻き込まれていきたい。個人が実感をもって脱炭素を語れることは必要であると思う。自分は断熱性能の高い家に住んでいるためその良さは語れるが、今後、市民がさまざまなプロジェクトに関わる中で、自分の言葉で語ることができる人が増えていけば素晴らしいことだと思う。
- 各地域にはさまざまな資源があるが、一番の資源は人材ではないかと思う。素晴らしいアイデアを持つ人が活躍する地域には、素晴らしい人が集まる。この京創ミーティングのように、そのような場ができると、地域の資源を最大限に活用できるのではないかと思う。

以上